

平成 27 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492000235	事業の開始年月日	H26.8.1
		指定年月日	H26.8.1
法人名	株式会社 エクセレントケアシステム		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 えくせれんと湘南平塚		
所在地	(〒259-1216)		
	神奈川県平塚市入野294-7		
サービス種別 定員等	□ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	H28.2.22	評価結果 市町村受理日	平成28年6月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/JDSearch.aspx?JGNAME=1492000235>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々の暮らしの中では、ご利用様が興味を持ってできる役割（生き物の世話、カレンダーの日付交換、園芸、調理、洗濯、掃除など）や活動（体操、散歩、買い物、工作、音楽、新聞の切り抜き、写経など）の支援を行い、年間行事としてご家族様を含めてクリスマス会や誕生会等を実施しています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年3月16日	評価機関 評価決定日	平成28年5月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

**【事業所の概要】**  
この事業所は、JR東海道線平塚駅より、秦野駅行きバスで約10分の長持バス停から徒歩5分ほどの住宅地にある。近くを通る東海道新幹線のガードをくぐると田園風景が広がり、住宅、学校や介護施設などが点在している。建物は、エレベーター付きの鉄骨3階建てで、1階が看護小規模多機能型居宅介護事業所、2・3階が2ユニットのグループホームで、開設から2年目を迎えた。玄関は共通でスペースが十分あり内部はすべてバリアフリーでエレベーターが設置されている。共有スペースであるリビングや廊下、居室などは全て広くゆったりとした環境であり、利用者も職員もゆったりとした様子で過ごしているのが見受けられた。

### 【理念の実践と地域連携】

管理者は、「利用者や家族に愛され信頼されて、利用者を第一に考えて感動と喜びを感じてもらい、利用者により安全と安心を提供するケアを行い、地域で一番と呼ばれるケアを目指して努力と研鑽に努める。」という法人理念を大切にしている。現在は、理念の中の「利用者により感動と喜びを与えるケア」に重点を置き、利用者の生活背景を把握して入居前の自宅での生活の延長ができるように心がけて、日々のサービスを実施している。

「入居前の自宅での生活の延長」とは、以前のように地域の一人として暮らすことと位置づけ、地区の行事に参加したり、小学校の運動会に出向いたり、事業所のイベントに地域住民を招いて交流を深めたりして、利用者により、地域に馴染んで暮らす喜びを感じてもらっている。また、地域の様々なボランティアの参加、協力を得て、利用者の日常生活に潤いを与えてもらっている。

地域の住民との交流、外出行事、レクリエーションなどは、利用者個々に介護計画書に取り入れ、心身の活性化、ADLの維持向上に結び付けている。

食事の後には、下膳や食器洗い、食器拭きなどを全員が交代で手伝えることにより、利用者同士が連帯感や仲間意識を持てるよう配慮している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	えくせれんと湘南平塚
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和を行い、意識付けの徹底を図っている。	法人が設定した5項目の理念は、各フロアに掲示し毎朝唱和して周知・共有している。管理者は、理念の中の「私たちは、利用者様に感動と喜びを与えるケアをします」という項目に重点を置き、利用者の生活背景を導き出して、以前の生活が継続できるようなサービスを目指している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会情報を把握。民生委員との交流を積極的に行い、日常的に情報の交換を行なっている。又、それに伴い、地域行事への参加をしている。	自治会に加盟し、神社の祭礼や公民館祭りに参加している。近隣の小学校の運動会に、見学に行っている。弾き語りやフラダンスの披露、折り紙を教えるボランティアが毎月来訪している。平塚の七夕祭りパレードで踊っている方も来ることがある。事業所の「一周年イベント」に芸能人を呼び、地域の人たちに来てもらった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物等利用者様と一緒に出掛ける事により、積極的交流を図り認知症への理解をして頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、包括、家族、協力医等に毎回出席頂き、事業所状況の報告を行なっている。又、地域の方からの現状を伺う等、ざっくばらんな話し合いが行なっている	運営推進会議は、併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月に1回開催している。利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、協力医、職員などが参加している。事業所の現況、活動、事故などを報告し、参加者との質疑応答を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	細かな内容であっても常に報告、相談、連絡が行える体制が整える事が出来ており、又、実際にそれを行なっている。	市の生活福祉課職員が生活保護費受給者の面接に来た際に意見交換している。ひらつか地域介護システム会議の会員になり、事業者間の情報交換や関係機関との連絡調整を行っている。また、介護に関する研修等に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間に関しては防犯上の観点から施錠しているが、日中は解錠している。フロア出入口はキー入力開閉とさせて頂いている。	法人の「利用者の権利擁護指針」を定め、接遇、身体拘束や高齢者虐待をしない介護を実施している。車椅子の方も、食事のときは椅子に移乗している。ユニット入口はナンバーロックとなっている。ユニットと階段の間の鉄扉は、施錠されていない。玄関は日中、施錠していないが、道路が近いのでセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な社内研修の実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な社内研修の実施。成年後見人の活用。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず実施し、ご納得の上での署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の実施。苦情・相談窓口の設置。	利用者の日々の生活状況はノートに記載し、家族との面接時に居室担当者や他の職員が説明したうえで、意見や希望を聞き取っている。運営推進会議に参加した家族から、聞き取ることもある。家族の意見を聞いて、排泄介助を改善しおむつの消費量を減らした事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2回／年の職員面談の実施。 又、それ以外にも、必要時逐一面談を実施。社内全体会議を毎月開催。	管理者は、毎月の合同会議、随時開催のフロア会議で職員が意見や提案を言いやすいように取り計らっている。フロア会議やカンファレンスでは、職員や居室担当者が自由に発言し意見や提案を述べている。年2回の職員面談で職員が目標を立て、必要と認めた研修の参加などを支援している。職員の提案で、利用者が夜間使用できるようにベッドサイドに置く電気スタンドを購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に個々に目標設定等をして頂き、各自の目標到達に向けてのフォローを行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修はもとより、社外研修の斡旋を積極的に行い、又、そのフォローを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市システム会議に参加。各事業所との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは顔を覚えて貰う事から始める。傾聴を重視し、信頼関係の構築を図るべく努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前段階からご家族とのコミュニケーション構築を行い、不安・疑問等の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議の実施。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常家事等を一緒に行なう事で一体感が抱けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議。都度、連絡を取り合い、現状等の共有を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人等の面会の積極的受入を実施。	利用者宛ての手紙や絵手紙を取次ぎ、代読している。以前からの友達が来訪した際は、リビングか居室に案内し湯茶の接待をしている。馴染みの場所が遠方の場合、インターネットマップで検索して現場の画像を見てもらい当時の思い出話を聞くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション等にて連携を構築。フロアレイアウトの工夫。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口は常に開放し、何時でも相談等受け付ける事をご家族様等に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各居室内の荷物等自由にお持ち頂いている。又、生活時間に関しても各自のスタンスに出来る限り応えられるよう対応している。	本人の以前の暮らしぶりや、会いたい人がいるかなどのバックグラウンドを、丁寧に聞き取っている。把握した内容は、申し送りノートや個人ファイルに記録して職員間で共有し、サービスに役立てている。利用者の食べたいものを聞き、職員が月曜と金曜の「手作り食事の日」に提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設関係者（ケアマネ等）との連携を図り、又、ご家族からのヒアリングを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングを中心に常に状況の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者を設け、担当者と計画作成担当者との連携を図り、他者からの情報収集も行い、状況変化対応を行なっている。	介護計画は、アセスメントを基に課題やニーズを抽出し作成している。職員は、個人別の「介護日報」に計画に沿った実施記録をつけている。居室担当者がケアの状況を把握し、カンファレンスに出席して意見を述べている。モニタリングを毎月行い、6か月または3か月ごと、状況が急変した場合は随時、計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人生活記録、職員申し送りノートの活用。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コミュニケーション構築を大事にし、そこから見つけるニーズ等を常に取り込み、日常生活サービスに取り入れている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、外出等、積極的に社会参加機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的往診の実施。それ以外でも何か有れば直ぐに駆けつけて頂ける状況が築かれている。	協力医は看護師を伴って月2回来訪し、16名が診療を受けている。2名は以前からのかかりつけ医を利用し、家族が対応している。診療情報は家族から聞き取っている。看護職員は、週1回健康管理などを行っている。歯科医は週1回来訪し希望者の診療をしている。入退院した場合、病院の医師から情報提供してもらい退院後の介護計画やケアなどに反映させている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートの活用。全体会議、フロア会議の実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、計画作成担当者を中心に、常に医療機関との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するマニュアルの整備、研修の実施、協力医等との連携にて支援を行なっている。	医療機関と連携して24時間の連絡体制がある。「重度化した場合における対応に係る指針」を契約時に説明している。重度化が進み家族などの希望があれば、医師を交えて話し合い、同意を得て看取りを実施する。現在までに数名の看取り介護の事例がある。家族が近隣に住む場合は、協力を得ている。看取りに関する職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備。研修の実施。関連事業所看護師からの指導・助言。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の掲示。災害時等のマニュアル整備。定期的避難訓練	防災訓練は年2回、看護小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、避難経路、通報訓練、消火器訓練を行っている。ガイドブック、ハザードマップを活用し地震や風水害対策を学んでいる。業者が配達する冷凍食品を専用冷蔵庫に保管し、災害時の備蓄にしている。飲料水やカセットコンロなどの備品は、1階の倉庫に保管している。4月には、近隣在住の職員が駆けつける訓練をする予定である。	年2回の避難訓練のうち1回は夜間想定を行うことに加え、備蓄リストを作成して3日分以上の飲料水、米などの食料品を確保することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様は全て人生の先輩であるとの認識を徹底し、尊敬の念を持ってサービス提供を行うよう努める。	利用者の尊厳を守り、プライバシーを確保するケアに努めている。利用者に対して尊敬の念をもち丁寧な声かけをしていた。リビングにある書類は、個人名の代わりに居室名を書き、収納棚に布のカバーをかけて保管していた。個人情報のある書類は、ユニットごとに施錠できる事務室のロッカーで管理している。家族との個人的な対話は相談室で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話だけでなく、動作や表情等の観察を行い、それに伴った声掛け等の対応を行なう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等必要最低限の時間の決まりは設けさせて頂いているが、基本本人の自由に時間を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時の更衣やモーニングケアの介助の徹底。本人と一緒に衣類の買い物に行く等の支援。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的イベント食の開催。（利用者様と一緒に手作り）。日々、利用者様からの食べたい物のリクエストを受け、それに見合ったメニューの考案。台所仕事を一緒に行なう。	昼食と夕食は原則として、献立と冷凍食材を業者に配達を依頼している。朝食と月曜・金曜の昼食は、利用者の希望をとって献立を作り、食材を利用者と一緒に行き買いに出かけて手作りで提供している。出前をとることもある。検食は管理者が週2回行っている。昼食を写真撮影して重複提供を防いでいる。利用者は、下膳と食器洗い、食器拭きを交代で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分摂取量のチェック。各利用者様に応じた食事形態での提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導、声掛けの実施。排泄介助。	トイレは各階に3か所あり、各居室とほぼ等間隔に配置されている。いずれも車椅子対応で広さも充分で、利用しやすい。排泄チェック表でパターンを把握して声かけや誘導を行っている。排泄チェック表は個人名を花の名で表示している。夜間は睡眠優先であるが、起きてトイレに行く人は見守りしている。トイレは清掃が行き届き清潔で、分かりやすいマークで表示されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要者に関しては協力医や系列看護師との連携にて排便コントロール実施。又、個々に見合った飲食物の提供。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日スケジュールは設定しているが、本人の希望等を鑑みての提供をしている。	入浴は原則週2回で、午前中である。体調によって、シャワー浴や清拭に変えている。浴室と脱衣所に空調設備があり、ヒートショック対策となっている。同性介助は希望すれば対応している。浴槽の湯は「かけ流し」となっている。浴室の前に段差があるため、踏み台を置いている。柚子湯などで季節感を出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間2時毎の巡視。環境整備。好天時の布団干し。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医、提携薬局、系列看護師との連携に基づき服薬支援を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味に合わせてレクリエーションの提供。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加。散歩、買い物等の実施。	温暖な気候になれば、事業所の周囲を散歩している。車椅子の利用者にも対応している。朝食や昼食の食材を買いに職員が付き添って出かけることがある。桜の花見、あやめや鯉のぼり、あじさい見物、紅葉狩りなど遠方への外出を行っている。地域の行事にも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の嗜好品等を一緒に買いに行くなどの支援。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は必ず本人にお渡しする必要に応じて電話の引継ぎを行なう。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に則したフロアの飾り付け毎日の清掃（利用者様と一緒に）空調管理（利用者様主体）。	リビングや廊下は広く、バリアフリーである。防音も充分で近くを通る新幹線の走行音は気にならない。壁には外出やイベントの写真、季節の飾りを貼っている。窓は大きく採光は充分で明るい。清掃は職員が行い、利用者が手伝うこともある。オープンキッチンが設置され、調理しながらフロア全体を見渡せる構造である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置に気をつけ、臨機応変に対応。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅から持ってきた家具等を自由に置いて頂いている。	居室は、空調設備・照明器具・カーテン・ベッド・ナースコールは常備されている。使い慣れた寝具やキャビネット、テレビ、家族の写真などを持ち込み、住み心地良くしている。飾り気のない質素な居室を好む利用者もいる。名前の表示はなく、「こすもす」など花の名前をひらがなで表示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ちょっとした料理など本人が希望した際は積極的に支援させて頂いている。		

事業所名	えくせれんと湘南平塚
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和を行い、意識付けの徹底を図っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会情報を把握。 民生委員との交流を積極的に行い、日常的に情報の交換を行なっている。又、それに伴い、地域行事への参加をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物等利用者様と一緒に掛ける事により、積極的交流を図り認知症への理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、包括、家族、協力医等に毎回出席頂き、事業所状況の報告を行なっている。又、地域の方からの現状を伺う等、ざっくばらんな話し合いが行なえている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	細かな内容であっても常に報告、相談、連絡が行える体制が整える事が出来ており、又、実際にそれを行なっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間に関しては防犯上の観点から施錠しているが、日中は解錠している。 フロア出入口はキー入力開閉とさせて頂いている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な社内研修の実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な社内研修の実施。 成年後見人の活用。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず実施し、ご納得の上での署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の実施。 苦情・相談窓口の設置。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2回／年の職員面談の実施。 又、それ以外にも、必要時逐一面談を実施。 社内全体会議を毎月開催。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に個々に目標設定等をして頂き、各自の目標達成に向けてのフォローを行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修はもとより、社外研修の斡旋を積極的に行い、又、そのフォローを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市システム会議に参加。 各事業所との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは顔を覚えて貰う事から始める。傾聴を重視し、信頼関係の構築を図るべく努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前段階からご家族とのコミュニケーション構築を行い、不安・疑問等の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議の実施		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常家事等を一緒に行なう事で一体感が抱けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議 都度、連絡を取り合い、現状等の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人等の面会の積極的受入を実施。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション等にて連携を構築。 フロアレイアウトの工夫		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口は常に開放し、何時でも相談等受け付ける事をご家族様等に伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各居室内の荷物等自由にお持ち頂いている。 又、生活時間に関しても各自のスタンスに出来る限り応えられるよう対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設関係者（ケアマネ等）との連携を図り、又、ご家族からのヒアリングを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングを中心に常に状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者を設け、担当者と計画作成担当者との連携を図り、他者からの情報収集も行い、状況変化対応を行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人生活記録、職員申し送りノートの活用。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コミュニケーション構築を大事にし、そこから見つけるニーズ等を常に取り込み、日常生活サービスに取り入れている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、外出等、積極的に社会参加機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的往診の実施。 又、それ以外でも何か有れば直ぐに駆けつけて頂ける状況が築かれている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートの活用。 全体会議、フロア会議の実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、計画作成担当者を中心に、常に医療機関との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するマニュアルの整備、研修の実施 又、協力医等との連携にて支援を行なっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備 研修の実施。 関連事業所看護師からの指導・助言。	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の掲示 災害時等のマニュアル整備 定期的非難訓練		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様は全て人生の先輩であるとの認識を徹底し、尊敬の念を持ってサービス提供を行うよう努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話だけでなく、動作や表情等の観察を行い、それに伴った声掛け等の対応を行なう		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事時間等必要最低限の時間の決まりは設けさせて頂いているが、基本本人の自由に時間を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時の更衣やモーニングケアの介助の徹底。 本人と一緒に衣類の買い物に行く等の支援。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的イベント食の開催。（利用者様と一緒に手作り） 日々、利用者様からの食べたい物のリクエストを受け、それに見合ったメニューの考案。 台所仕事を一緒に行なう。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分摂取量のチェック 各利用者様に応じた食事形態での提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導、声掛けの実施。 排泄介助		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要者に関しては協力医や系列看護師との連携にて排便コントロール実施。 又、個々に見合った飲食物の提供		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日スケジュールは設定しているが、本人の希望等を鑑みての提供をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間2時毎の巡視 環境整備 好天時の布団干し		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医、提携薬局、系列看護師との連携に基づき服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味に合わせてレクリエーションの提供		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加 散歩、買い物等の実施		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の嗜好品等を一緒に買いに行くなどの支援。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は必ず本人にお渡しする必要に応じて電話の引継ぎを行なう。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に則したフロアの飾り付け 毎日の清掃（利用者様と一緒に 行なう） 空調管理（利用者様主体）		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置に気をつけ、臨機応変に対応。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅から持ってきた家具等を自由に置いて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ちょっとした料理など本人が希望した際は積極的に支援させて頂いている。		

# 目 標 達 成 計 画

グループホーム

事業所名

えくせれんと湘南平塚

作成日

H28.5.31

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	夜間想定での避難訓練が行われていない。	夜間想定での避難訓練を実施し夜間緊急時対応をより強固にする	緊急連絡網を使った訓練から開始し緊急呼出し訓練を行う。下地訓練を重ねた後に夜間想定訓練に取り組んで行く	下地訓練を確め、その後今年度中の夜間想定訓練を取り行う
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。